●昭和23年7月8日第3種郵便物認可●毎週2回月・木曜日発行(但し祝日を除く)●発行所〒104-8178 東京都中央区銀座5丁目15番8号 時事通信社 電話(03)6800-1111 ©時事通信社 2008

時事通信社

金融財政

2007年(平成19年) 7月5日 (木) 第9844号 (購読料金 月額税込み5,565円)

無限大の欲望

お茶の水女子大学教授 篠塚英子

TBSが「パチンコ台廃棄」に焦点を当てた「報道特集」をやっていた(5月27日)。20分程度の番組で、大学の教材に最適と、さっそく活用した。

世界に誇る日本のパチンコ産業は、熾烈な競争の下、新規のパチンコ台が続々と登場する。そこで廃棄台数は年間400万台にも上るという。国内の遊戯機組合では、もちろん廃棄処理システムをつくり対処している。だが、そこに持ち込まれるのはわずか100万台で、全体の4分の1にすぎない。

残りはどうなっているのか。何と1台千円で香港業者に買われて集荷される。国内処理では無料だが、香港では有料で引き取るとなれば、市場原理から見て流出するのは当然だ。その結果、解体作業の元朗地区はごみの町と化した。基板から金、銀、銅を含め、リサイクル可能な部品を取り出し再利用される。ところが、こうして香港で処理されるのはわずか1割で、残りは中国へ、他国へと転売されていく。

廃虚のごみの町で、悪臭漂う処理液に浸したパチンコ台から1日中部品を剥ぎ取る仕事が、この町全体の収入源である。吐き気や頭痛にもう慣れてしまったと、女性たちが淡々と答える。

学生の感想で一番多かったのは、グローバル化した経済がもたらす醜い部分であり、本来これは国内ですべて処理されるべきものだ、という批判。次に多いのは、この事例はパチンコ台であったが、携帯電話、パソコンなど日本国内で大量生産されたものも同様の状態にあるのではないか? という不安である。

私の感想は、ケインズの次の言葉を引用したものであった。

ケインズは「わが孫たちの経済的可能性」という論文で「重大な戦争と顕著な人口の増加がないと仮定すれば、経済問題は100年以内に解決されるか、あるいは少なくとも解決のめどが付くであろう」といった。だが「孫」の世代の学生にとって、経済問題は解決されるどころかもっと複雑になった。それは人間の欲望が無限大であることに、ケインズは気が付かなかったからなのだろうか?

「死屍累々」の廃棄物の山は、人間の無限大の欲望の結果でなくて、一体何であろう。

CONTENTS

●国際経済
特集・アジア通貨危機から10年
その教訓と日本の進路(下)(山下英次)…… 2
●BANCO 車内放送(額賀 信)…… 3
●照一隅 問われる民主主義の質(新雪)…… 5
●インサイド 米国型か日本型か、割れる財界 7
●解説 猛威を振るう
金利差重視の個人マネー(斎藤 満)
外為市場で進む構造変化―蓄積続く円高圧力 8
●マーケットレーダー
300兆円の衝撃(小池正一郎)……13
●解説
「ポスト京都」めぐり交渉本格化へ
―G8、温室効果ガス削減で大筋合意 ……14
●カラム・コラム (藤原作弥)……15
●海外誌紙に見る日本の評判 ……17
●財政金融ウオッチング(5月後半)……18
●資料 中小企業月次景況観測〈6月〉……19
●北風・南風 浜松信金(静岡)……20